

保育士を支援する必要性と研究動向に関する調査

張 貞京、佐々 智子

本研究は多様な支援を提供する保育士を支えるための有効な支援を探ることを目的に、保育士支援に関する国内の研究動向を分析する。2000年から2022年までの現職保育士を対象とした研究成果より、障害児保育、保護者対応などに苦心する保育士の現状が明らかにされており、支援策として、園内のサポートと巡回相談、研修機会などが挙げられた。保育士への具体的かつ連続的な支援策が地域などの格差なく取り組まれることが求められる。

キーワード：保育士、支援、園内サポート、巡回相談、専門職

I はじめに

1 保育士の現状

近年、保育所が果たす社会的な役割が重視され、多様化する保育ニーズに対応することが求められている。2018年に改訂が公示された保育所保育指針の第3章では健康及び安全として、アレルギー対応や災害時の地域住民の生活の維持や再建を支える役割、第4章では保護者・地域の子育て支援として、特別なニーズを有する家庭への支援、児童虐待の発生予防や発生時の的確な対応、地域に開かれた支援を明記しており、多様かつ重要な役割が求められている¹⁾。さらに、COVID-19の感染拡大によって社会全体が「つながり」の分断を強いられるという生活の変化の中で、子育て家庭の孤立が虐待のリスク因子になり得ることへの対策として、保育所への期待がより一層高まっていると言わざるを得ない。

保育現場はこのような社会から期待される役割を担いながら、日々の保育において「気になる子ども」「気になる保護者」への対応に苦慮していることも多い。このように重要かつ多様なニーズに対応する業務の負担が保育士のストレ

スになっていることは想像に難くない。すでに保育士のストレスに関する調査^{2)~4)}や、離職等に関する研究でも^{5) 6)}保育士のバーンアウト傾向の高さが指摘されている。バーンアウト傾向に注目した研究^{7)~10)}の中でも、宮下(2010)¹¹⁾は、保育士のストレス要因として「仕事の多さと時間の欠如」、「園内の人間関係」、「子ども理解・対応の難しさ」、「保護者との関係」が関係していると報告している。これらの研究報告では主に職場環境の整備と改善、保育士個人の内的要因に対するサポートの必要性に触れているが、それぞれの施設の努力に委ねざるを得ない現状も伺える。

2 政策にみる保育士支援への変化と現状

保育士を取り巻く現状が厳しさを増していることは政策の変化にもみられるが、同時に保育士への支援対策が講じられている側面がある。2021年から2024年度まで、厚労省は待機児解消と女性の就業率の上昇に対応するために進めてきた「子育て安心プラン」を「新子育て安心プラン」として自治体への支援策を引き続き打ち出している¹²⁾。支援のポイントとなっているの

が、地域の特性に応じた支援、魅力向上を通じた保育士の確保、地域のあらゆる子育て資源の活用の3点である。二つ目の保育士の確保に向けた取り組み例として、保育士・保育所支援センターの機能強化が挙げられており、現職保育士の就業継続に向けた相談が補助対象に追加されている。

さらに、若手保育士や保育事業者等への巡回支援の拡充として、働き方改革支援コンサルタントの巡回や魅力ある職場づくりに向けた啓発セミナーの実施を補助対象に追加することが明記された。保育士が相談しやすい体制整備を行い、離職を防止するねらいがある。相談の体制については、SNSの利用を含めて、保育士が相談できる窓口を設置し、心理職や社労士などの専門職から支援を受けられるようにしている。離職防止がねらいとはいえ、保育士支援の必要性が認められた動向ではあるが、如何に自治体の格差をなくし、保育士の要望に応えるものになっていくかが課題であろう。

3 政策の変化が残す課題

保育士の離職防止に関する政策とともに、保育士数を確保するために進められていることが保育所等での在職経験のある潜在保育士への対応である。

潜在保育士の実態および保育現場の要望に関する調査によれば、復帰するために潜在保育士が希望する研修内容には、保育実技(49.8%)、救命救急(47.6%)、保護者対応(47.6%)の順の結果であった¹³⁾。それに対して、現職保育士は保護者対応(58.1%)、保育実技(50.6%)、発達心理学(41.4%)の順であった。この結果から、潜在保育士と現職保育士のいずれも、保育の実技を身に付けたいと意識していることが分かるが、保護者対応の要望も多く、保育士のバーン

アウトに関する研究で指摘されたストレス要因であることを示している。現場復帰のための研修のみならず、継続的な保育士支援の必要性が伺える。

さらに、待機児童問題の解決策として潜在保育士の保育現場への再就職を促進する観点から、短時間勤務の保育士の配置に関する要件が緩和されている¹⁴⁾。2020年以降、待機児童数が1人以上である市区町村に限定しているものの、常勤の保育士を十分に確保することができず待機児童数が改善されないため、市区町村がやむを得ないと認めた際、これまでは各クラス等で1名以上常勤の保育士を配置するよう求めていた規制を撤廃することが可能になった。つまり、1名の常勤保育士に代わって2名の短時間勤務の保育士を充てても差し支えないことに変更されたことになる。潜在保育士が復職を希望する際、短時間勤務の希望が多かったことが背景にあると考えられる。

運用に際して、常勤保育士との連携について、交替時の適切な引継ぎ、保育の計画や評価の共有機会など、常勤保育士に負担が偏ることのないように適切に業務分担することが明示されている。しかし、多忙な保育現場において、常勤保育士と短時間勤務の保育士が適切にコミュニケーションを取り、適切に業務分担を進めることは容易ではなく、園内のサポートをはじめとする園内外の様々な支援策を講じる必要がある。

以上をふまえ、子どもたちの健やかな育ちを支え、多様な支援を提供する保育士を支えるために有効な支援を探ることを目的とする。本研究では、保育士に対する支援に関する国内の研究動向を分析し、有効な支援策を考察する。

II 研究の方法および手続き

1 文献検索の基準と手続き

研究動向について、国立情報学研究所による研究データベースである CiNii を利用し、研究目的のキーワードを用いた検索を行った。検索対象は、現職保育士のおかれた現状と改善について探るため、国内の研究に限定した。

使用したキーワードは、保育士を支援する視点が示された研究タイトルに注目するため、「保育者（保育士・保育職）への（のため・を）」に、「支援、援助、ケア、サポート、メンタルヘルス、バーンアウト」を組み合わせて検索を行った。対象とした研究の発表時期は、2000年～2022年7月であった。

2 倫理的配慮

本研究は、研究目的である研究動向を探るため、文献検索を研究方法としており、個人情報を含まない。

3 分析の手続き

設定したキーワードに用いて論文タイトルの検索を行い、年代別の傾向を読み取った。次に、本研究の対象が現職保育士であるため、保育士養成校の学生を研究対象にしたもの、支援をテーマとして扱っていないものを削除した。保育士への支援に関する論文を研究者2名で分析、協議を行い、現職保育士に対する支援策と要望に注目した研究論文の一覧を作成した。分析視

点には、保育士のメンタルヘルスについて2014年までに発表された国内外の研究動向をレビューした加藤・安藤（2015）を参考とした¹⁵⁾。

なお、対象論文の一覧を2000年～2010年、2011年～2022年の二つの時期に分けて示す。

III 結果および考察

1 保育士支援に関わる研究数の変化

キーワードに従って検索を行い、重複するものを削除した結果を表1に示す。2000年から2022年7月までに発表されたものは106件であった。2010年までが37件であったのに対して、2011年から2022年7月までは69件となり、2倍に近い増加傾向がみられた。

その内、現職保育士を対象とし、支援の必要性と方法について研究されたものは、2000年から2010年までが15件、2011年から2020年までが16件、2021年から2022年7月までが1件であった。支援を行う保育士の負担を軽減すべく、支援が必要であることは指摘されてきているが、必要性や具体的な支援策に関する専門的な研究が増加するまでには至っていないことが伺える。

表1 年代別キーワード検索結果

	発表年	支援	援助	ケア	サポート	メンタルヘルス	バーンアウト	年代別合計
「保育者（保育職・保育士）への（のため・を）」	2000～2010	29	7	0	0	1	0	37 (15)
	2011～2020	47	7	3	7	1	1	66 (16)
	2021～2022 (7月)	2	1	0	0	0	0	3 (1)
	キーワード別合計	78	15	3	7	2	1	106 (32)*

*：() 内の数は現職保育者への支援を扱った論文数

表2 保育士の職務内容と支援策（2000年～2010年）

発行年	タイトル	筆頭著者	職務内容**			保育者支援策***					提案	
			障害児保育	保護者支援	その他	園内のサポート	巡回相談	専門機関との連携	研修			その他
									知識技術	他園との情報交換		
1 2000	統合保育において子どもと保育者を支援するシステムの研究	藤崎 春代	○			●	●	●				サポートシステム構築
2 2000	障害児保育における保育者への支援—コンサルテーションとしての巡回相談の果たす役割—	浜谷直人	○				●					コンサルテーションモデル
3 2004	幼稚園・保育所における子育て支援ニーズに関する研究—保護者と教諭・保育士への質問紙調査を通じて	伊藤篤		○							●	
4 2004	病棟の保育士による病児支援についての研究：病棟の保育士への実態調査及び意識調査をふまえて	栗山宣夫		○	きょうだい支援						●	
5 2004	八戸市における保育園児の精神保健（虐待、情緒障害、障害児保育、子育て支援）に関する調査—保育士へのアンケート調査結果から—	瀧澤透	○	○						●		
6 2006	子育て支援とカウンセリング（2）：埼玉県内の保育所の保育者を対象とした調査から	井上清子		○		●				●		
7 2007	子育て支援としての相談活動のあり方—保育所・幼稚園の保育者を対象にした質問紙調査から	中津 郁子		○							●	専門相談員の配置
8 2007	保育者へのメンタルヘルス介入プログラムの実践例	後藤悦子			全般							保育カウンセラー 介入プログラム作成
9 2008	医療施設における病児のきょうだい支援（第2報）小児病棟の看護師と保育士を対象とした質問紙調査からの検討	原 純子			きょうだい支援							組織的な支援体制作り

(9件)と他園の保育士との情報交換(7件)を求める「研修」があった。その他、「保育カウンセラー」、「事例検討」、「実践報告」が見られた。次に、得られた支援策別にみていく。

(1) 園内のサポート

担当クラス保育の運営へのサポートだけでなく、管理職の理解と保育相談援助や先輩保育士、同僚保育士からの心理的なサポートなどが挙げられた。「専門機関との連携」は、障害児が並行通園している専門施設との連携や保健所保健師との連携などが見られた。障害児が通う専門施設職員との連携は、障害のある子どもの発達理解と対応について多面的な視点を与えており、保育士が自身の成長を実感する支援策となっていると考えられる。保健所保健師による衛生指導も、専門的指導を受けることで、担当クラスの子ども達と学びや気づきを共有し、子どもと保育士が共感する機会となっているのではないだろうか。

(2) 巡回相談

障害のある子どもの保育への相談支援を目的としている「巡回相談」は、自治体によって回数や巡回する専門職の違い、対応する業務内容などに差が見られる。さらに、自治体によっては「専門機関との連携」の中に巡回相談の役割が含まれている例が見られる。また、支援策のその他でみられた「保育カウンセラー」も「巡回相談」の一つと考えることができる。自治体による違いなどの課題は多いが、園外からの専門職が客観的な視点を持ち、保育士をサポートする必要性を示している。

さらに、「巡回相談」を支援策として挙げた研究の多くが保育士の現状とニーズに沿った改善策を提案している。提案された改善策としては、

サポートシステムとコンサルテーションモデルの構築、巡回保育指導員の配置、定期的かつ継続的なコンサルテーションの実施、心理職だけでなく言語聴覚士・理学療法士・作業療法士の指導、巡回相談の回数増加、保護者への直接対応などが挙げられた。これらの改善策は、「巡回相談」が保育士への支援策として、保育に関する助言にとどまらない支援の役割を果たす可能性があることに言及しているといえる。

(3) 研修

支援策としての「研修」では、保育内容や保護者対応などに関する知識や技術向上を図るものが上がっていたが、他園の保育士との情報共有を要望する調査結果が見られた。知識と技術については、日々の困難を改善し自己研鑽に取り組む保育士の姿勢を示している。加えて、他園の保育士との情報共有は、保育士が自分の置かれた状況を客観視し、所属する園の様々な環境の違いを超えた共感と実践例から学ぼうとしていることが伺える。また、「事例検討」、「実践報告」も、園単位で実施される場合や地域単位、保育園連盟などの連合体が運営する部会単位など、様々な規模で行われている現状があり、保育を客観視し、学ぼうとするニーズに対する支援策といえる。

IV 総合考察

1 保育士支援に関する問題

保育現場の業務負担の増加や保育士不足が指摘され続けて久しい。保育士を取り巻く現状も刻々と変化し、それに伴う国の政策も変化している。保育士は担任する子ども達だけでなく、保護者やその家族までを支援し、地域での子育て支援の役割まで担うことが求められている。保育士が子どもたちや保護者に対する支援を継続

的に行うことで、子どもたちの成長を感じ、保護者と喜び合える瞬間を体感し、保育士としての達成感を抱くのだろう。しかし、保育士が達成感を抱くまでには、様々な子どもや保護者との関わり、園内での保育士間の関係性など、悩みやストレスを抱えることが少なくない。さらに、日々の保育を行っている中、保育士には常に様々な対応と判断が求められており、それらには責任が伴う。園内のサポートがあるとはいえ、保育士は自身が行う対応と判断への迷いを抱えながらも、クラスの担任として、子どもや保護者への支援者としての責任に重圧を感じているのではないだろうか。

一方で、政策的に取り組み始められている相談支援は離職防止をねらいとする側面が強く、多くの負担を強いる業務に携わる保育士の日々を支援するものになっているとはいえない。保育士が困難を感じて追い詰められてからではなく、本人の頑張りを支援し、自己コントロールを助けられるように、日々抱くちょっとした困難を客観視して解決するヒントを得られる支援策が求められるのである。

2 巡回相談システムの課題

保育士への支援策として複数の研究において注目された「巡回相談」は、障害児保育に対応するものとして1970年代から各自治体で始められた(三山、2013)⁴⁹⁾。保育士の障害理解や保育に関する助言を行ってきており、巡回相談が保育士の困難を支援する役割を担っていることは言うまでもない。しかし、自治体による実施回数や相談員の経験などの制限と格差があり、巡回相談員による助言と保育士が抱く困難にずれが生じている例もみられる。さらに、巡回相談に関するシステムが2013年の障害者総合支援法が施行されたことに伴い、2011年から厚生労働

省による市町村地域生活支援事業のメニューの一つとして組み込まれてきている。巡回相談を担うべくして、全国私立保育園連盟が育成する保育カウンセラーや国立障害者リハビリテーションセンターによる巡回支援専門員の育成が進められている。相談を担う人材の育成には、障害のある子どもの保育に関連する支援だけでなく、保育相談全般に対応すること、地域の子育て関連施設を利用する保護者への子育て支援にも携わることが求められている。巡回相談システムの必要性が認知され、人材育成が進められているが、保育士支援策としての課題および自治体による格差の解決には至っていない。

V 今後に向けて

研究動向から支援策の必要性を明らかにしたが、今後は保育士の置かれた現状や支援策について自治体の格差を明らかにし、保育士のニーズに合わせた巡回相談のあり方および支援システムの構築を探る必要がある。

同時に、多様な支援を提供する役割を担う保育士が、個々に抱えて消化するための支援システムではなく、保育士自身も支えられていると実感できる支援システムの構築を目指すべきであろう。

引用文献

- 1) 厚生労働省、保育所保育指針解説、2019
- 2) 治部哲也・小山秀之、保育士のストレスに関する質的研究：テキスト・マイニングを用いた職場のストレスの分析、関西福祉科学大学 EAP 研究所紀要 No.14、pp.25-32、2020
- 3) 岸本直美・藤桂、保育所における雑談が保育士のストレス反応に及ぼす影響、心理学研究 Vol. 91、No.1、pp.12-22、2020
- 4) 赤川陽子・木村直子、保育士の職場ストレスに関する研究、保育学研究、vol.57、No.1、PP.56-66、2019
- 5) 木曾陽子・春木裕美・岩本 華子、保育士の早期離職率等と保育施設における離職防止策の実施状況との

- 関連：大阪府内の保育施設への質問紙調査より、社会問題研究 No.71、pp.17-29、2022
- 6) 庭野晃子、保育従事者の離職意向を規定する要因、保育学研究 Vol.58、No.1、pp.105-114、2020
 - 7) 太田祐貴子、保護者対応と保育士のバーンアウト：看護師との比較から、お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要 No.18、pp.1-11、2017
 - 8) 福島久美子・清水寿代、保育士のバーンアウトに影響を及ぼす要因の検討：発達障害に関する知識に着目して、幼年教育研究年報 No.39、pp.13-22、2017
 - 9) 齊藤友子・平井和明、保育者の精神健康およびその関連要因についてのレビュー、日本社会福祉マネジメント学会誌 Vol.1、No.2、pp.43-55、2021
 - 10) 宮下敏恵、保育士におけるバーンアウト傾向に及ぼす要因の検討、上越教育大学研究紀 No.29、pp.177-186、2010
 - 11) 前掲書 10
 - 12) 厚生労働省、新子育て安心プラン、2020
 - 13) 厚生労働省、潜在保育士ガイドブックー保育士再就職支援調査事業・保育園向け報告書、株式会社ポピンズ、2011
 - 14) 前掲書 12
 - 15) 加藤由美・安藤美華代、保育者のメンタルヘルスに関する国内外の研究の動向と展望ー学校教員を対象とした研究を参考に、岡山大学大学院教育学研究科研究集録 No.159、pp.1-10、2015
 - 16) 藤崎春代・木原久美子・倉本かすみ、統合保育において子どもと保育者を支援するシステムの研究、発達障害研究 Vol.22、No.2、pp.120-128、2000
 - 17) 浜谷直人、障害児保育における保育者への支援ーコンサルテーションとしての巡回相談の果たす役割一、東京都立大学人文学部 人文学報 教育学 No.35、pp.1-29、2000
 - 18) 伊藤篤・岡田由香・奥山登美子、幼稚園・保育所における子育て支援ニーズに関する研究ー保護者と教諭・保育士への質問紙調査を通じて、人間科学研究 Vol.11、No.2、pp.129-145、2004
 - 19) 栗山宣夫、渡邊健治、病棟の保育士による病児支援についての研究：病棟の保育士への実態調査及び意識調査をふまえて、東京学芸大学紀要、第1部門教育科学 No.55、pp.261-266、2004
 - 20) 瀧澤透、八戸市における保育園児の精神保健（虐待、情緒障害、障害児保育、子育て支援）に関する調査ー保育士へのアンケート調査結果から一、光星学院八戸短期大学研究紀要 No.27、pp.31-46、2004
 - 21) 井上清子・石川洋子・会沢信彦、子育て支援とカウンセリング (2)：埼玉県内の保育所の保育者を対象とした調査から、教育学部紀要 No.40、pp.21-29、2006
 - 22) 中津郁子、子育て支援としての相談活動のあり方ー保育所・幼稚園の保育者を対象にした質問紙調査から、小児保健研究 Vol.66、No.1、pp.46-53、2007
 - 23) 後藤悦子、保育者へのメンタルヘルス介入プログラムの実践例、立教大学臨床心理学研究 No.1、pp.41-51、2007
 - 24) 原純子・大野雅樹・植山こずえ、医療施設における病児のきょうだい支援（第2報）小児病棟の看護師と保育士を対象とした質問紙調査からの検討、医療と保育 Vol.7、No.1、pp.18-29、2008
 - 25) 川池智子、保育者の「子育て支援」に関わる専門性とりカレント教育（その1）：山梨県内の保育士への調査結果をてがかりとして、山梨県立大学人間福祉学部紀要 No.3、pp.19-32、2008
 - 26) 橋玲子・運上司子・伊藤真理子・真壁あさみ、S市における子育て支援に関する保育士への臨床心理学的援助（資料）：予備的調査、新潟青陵大学大学院臨床心理学研究 No.2、pp.81-85、2008
 - 27) 井戸ゆかり、巡回保育指導員によるコンサルテーションの効果と課題ーとくに保育者への支援を通して一、東横学園女子短期大学紀要 No.42、pp.35-46、2008
 - 28) 藤林清仁、障害児保育担当保育士への支援、社会福祉学研究 No.4、pp.19-25、2009
 - 29) 細川かおり、統合保育における保育士の保育、支援・配慮に関する実態調査ー中堅以上の保育士への調査を通して、鶴見大学紀要、第3部、保育・歯科衛生編 No.46、pp.93-100、2009
 - 30) 芦澤清音、発達臨床の専門性は保育カンファレンスで保育者をどのように支援するかー保育園の“気になる子”の事例検討会の分析、帝京大学文学部教育学科紀要 No.35、pp.25-35、2010
 - 31) 北濱雅子・清水年志子・廣瀬三枝子、保育所における子育て支援の実践（1）N園保育士への調査から、香川短期大学紀要 No.39、pp.9-17、2011
 - 32) 倉石哲也・寺井朋子・橋詰啓子、保育士の支援に関する実践的取り組み：「保育士のための元気アップ勉強会」の内容と評価、臨床教育学研究 No.19、pp.43-61、2013
 - 33) 片山喜章、保育者を支援するネットワーク「公開保育（みてみて保育）」の新たな取り組み形態と多様性の理解、発達 Vol.34、No.134、pp.53-58、2013
 - 34) 林牧子・新井美保子、学生から保育者への移行期支援ー若年保育者の不本意な離職・休職を防ぐために一、愛知教育大学 幼児教育研究 No.17、pp.11-19、2013

- 35) 鍵山武・他、浜松市における幼稚園・保育園への巡回支援の実践、社会福祉事業団職員実践報告・実務研究論文集 No.36、pp.32-60、2013
- 36) 亀崎美沙子、保育相談支援における保育士の葛藤—「気になる子ども」の保護者との関係変容に伴う支援の質的転換に着目して—、十文字学園女子大学紀要 No.47、pp.37-48、2016
- 37) 中山政弘、特別支援教育論から考える幼稚園教諭・保育士を対象とした研修のあり方について、福岡女学院大学紀要 No.18、pp.47-54、2017
- 38) 倉石哲也・橋詰啓子・寺井朋子・石川道子、保育士支援としての「保育士のための元気アップ勉強会」の取り組み：4年間の実施状況と調査内容の報告(特研報告)、臨床教育学研究 No.22、pp.53-62、2016
- 39) 中山政弘、特別支援教育論から考える幼稚園教諭・保育士を対象とした研修のあり方について、福岡女学院大学紀要 No.18、pp.47-54、2017
- 40) 室岡真樹・平澤則子・飯吉令枝・高林知佳子、幼児の手洗い方法の習得に関する保育士への保健所保健師の支援、日本地域看護学会誌 Vol.20、No.1、pp.62-68、2017
- 41) 須永真理、幼稚園における相談援助・支援の現状と課題—保育者へのインタビュー調査を通して—、和泉短期大学研究紀要 No.38、pp. 97-103、2017
- 42) 須永美紀、新任保育者へのサポート体制に関する一考察—保育士へのアンケート調査を通して—、こども教育宝仙大学紀要 Vol.9、No. 2、pp.39-46、2018
- 43) 木本優香、保育者を中心とした発達支援センターでの取り組み、乳幼児療育研究 No.31、pp.56-59、2018
- 44) 倉石哲也・石川道子・中井昭夫・橋詰啓子・須貝香月、保育士支援としての「保育士のためのレベルアップ勉強会」の取り組み：2016~2018年度の実施報告、臨床教育学研究 No.25、pp.69-77、2019
- 45) 堀美鈴・多川則子・小島千枝、新任保育者への支援のあり方について—保育者が意欲を持ち長期勤務につなげるために—、教育保育研究紀要 No.5、pp. 15-28、2019
- 46) 北濱雅子、保育士を対象とした保育相談支援に関する研修実践、香川短期大学紀要 No.48、pp.145-154、2020
- 47) 上村誠也・小野里美帆、保育士の障害児通所支援に対する理解と支援ニーズの実態：保育士へのアンケート調査を通して、教育学部紀要 No.54、pp.169-177、2020
- 48) 朝岡寛史・明石真奈・是永かな子、保育士を対象とした発達が気になる幼児の支援に関する研修の効果、高知大学学校教育研究 No.3、pp.153-160、2021
- 49) 三山岳、障害児保育における巡回相談の歴史と今後の課題、京都橘大学研究紀要 No.39、pp.206-185、2013

